

建材アルミ部会ニュース 1

発行日：2008年10月16日

作成者：建材アルミ部会担当・清水

連絡先：03-3451-2425

建材アルミ部会を再起動させる総会が開催された！

建材アルミ部会は、10月10日、東京の「友愛会館」において、2003年に第5回総会を開催して以降、産別外のアルミ関連労協に活動の主体をに移して、部会を存続させてきたが、中立組合の一部にJAM加盟を現実のものにする動向が明らかになったことに加え、他の業種別部会活動との連携の必要性から、JAM業種別部会としての部会活動を再開することが三役会議で確認され5年ぶりの部会総会が開催された。



・写真上、総会の開会に当たって挨拶する土合部会長(三協立山労組・中央執行委員長)
・写真右、新役員全員が紹介され、代表して挨拶する小川新部会長(不二サッシユニオン・中央執行委員長)

総会では、部会の再開を決めた三役会議の基本合意をベースとした活動方針が採択され、活動計画でも経済闘争・産業政策・安全衛生等について基本的な考え方を示された。

中立労組が参加してのあらたな部会活動の検討についても向こう一年三役を中心に検討していくことが確認された。役員を選出にあたっては、任期を他の業種別部会の任期と合わせることを前提に、通常二年のところ今期に限り一年とし、2009年度の役員を選出した。部会長には不二サッシユニオンの小川中央執行委員長、事務局長には、三協立山アルミ労組の辻中央執行委員長がそれぞれ就任した。

部会は、年明けの1/23～1/24の日程で、JAMの他の業種別部会と合同で、春闘方針を中心とした「労使研修会」を静岡県熱海後楽園ホテルで開催する予定をしている。その合同労使研修会には、建築関連の「鋼構造部会」や「住宅設備部会」も参加する。情報交換の機会としよう！



* 本ニュースは、FAXの一斉同報で発信しました。今後、単組との連携をより緻密にするために、構成組織のEメールアドレスの登録をお願いしたい。については、以下、私、清水のEメールアドレスにテスト送信でアクセスしてください。 nobuyuki.shimizu@jam-union.jp

建材アルミ部会として合同労使研修会に6年ぶりに参加！

昨年10月再起動した建材アルミ部会は、2003年1月の合同労使研修会参加を最後に遠ざかっていた合同労使研修会に部会として久々に復活し、他の部会から温かく迎えられた。また同時に、当日は景気の悪化や諸事情により当該部会参加は、6組合8人・2企業2人と少なかったが、内容の濃い労使研修会であった。



合同労使研修会の開催に先立ちJAMの業種別部会担当副会長としての挨拶をする小田副会長、写真上

今年の合同労使研修会は、当該部会が参加して都合7業種別部会・総勢140人が、毎年会場としている静岡県の熱海後楽園ホテルに集まって開催された。2001年1月に初回の合同労使研修会が開催されてから、業種別部会としての春闘の取り組みに関する情報交換と意思確認中心に開催され、今年で通算9回目の開催となった。

研修会は、米国のサブプライムローン破綻をきっかけに始まった、株安・為替の急激な変化が、日本経済までも飲み込み、实体经济に及ぶまでに至るといった、景気後退局面を背景に開催された。連合や産別方針に掲げられた体系維持分+過年度物価上昇分を獲って、水準維持といった考え方を基本とするものの、足元の企業状態を踏まえた要求とせざるを得ない業種の動向が見え隠れする研修会であった。

労使研修会2日目は、住宅設備部会と合同で、個別課題研修として、「建設連合の産業政策」と「WLB(ワークライフバランス)」について、講師を招いて講演形式の研修を行った。WLBの講演をした、学習院大学・大学院経済学研究科の脇坂専任教授は、ファミリーフレンドリー政策の発展系で短時間労働がWLBを拡大・定着する上の近道という持論を展開、調査結果をビジュアル化したパワーポイントで、解りやすく開設つきの講演は、多くのWLBの話聞いた部会担当としては好評価を差し上げたい。

建設連合の産業政策を説明する小川中央執行委員長
写真右



*本ニュースは、FAXの一斉同報で発信しました。今後、単組との連携をより緻密にするために、構成組織のEメールアドレスの登録をお願いしたい。については、以下、私、清水のEメールアドレスにテスト送信でアクセスしてください。 nobuyuki.shimizu@jam-union.jp

2009年度第2回労使研修会を開催！

昨年の10月再起動した建材アルミ部会は、7/7～7/8に年度2回目の労使研修会を実施しました。

労使研修会は、安全衛生活動の参考にするための工場見学と知見を広めるための施設見学が計画され、日本を代表する車輛メーカーである日本車輛製造(株)豊川製作所とトヨタグループ13社によってつくられた産業技術記念館(トヨタ・テクノミュージアム)を見学しました。参加者は、7労組9人・3企業3人と少なめではありましたが、その分見学中の説明も詳しく聞くことが出来、とても有意義な時間となり内容の濃い労使研修会となりました。



昨年まで、アルミ関連労協に活動を委ねてきた建材アルミ部会の労使研修会は、安全衛生週間が実施される7月上旬に労使研修会を開催し、「アルミ」と「安全衛生活動」という切り口から、アルミを多用していることと製造物の大きさから車輛メーカーの見学が企画段階での希望であり、調整を行った結果見学が実現した。

写真左は、構内に展示してある最近引退したばかりの0系新幹線をバックに記念写真の参加者

二日目の7/8は、トヨタ・テクノミュージアムを見学、紡績機械製造の発展系として取り組まれた自動車製造関係機械等々が数多く展示され、JAMが研究する「ものづくり」政策の原型を見学し知見を広めることができた。

写真右は、トランペットでの定時演奏をするロボットと入り口ロビーに展示してある豊田佐吉が発明した環状織機の前での記念撮影



*本ニュースは、FAXの一斉同報で発信しました。今後、単組との連携をより緻密にするために、構成組織のEメールアドレスの登録をお願いしたい。については、以下、私、清水のEメールアドレスにテスト送信でアクセスしてください。 nobuyuki.shimizu@jam-union.jp